

# 令和元年お茶づくり技術情報 (No.6)

2019年(令和元年)5月16日  
佐賀県茶業技術協会  
佐賀県茶業試験場

## 1. 萌芽および生育経過

表1 萌芽期(試験場内作況調査ほ場)

本 年	前 年
3月28日	3月30日

作況調査ほ場の概要  
品種：やぶきた  
樹齢：18年生

表2 芽長と開葉数の推移(試験場内作況調査ほ場)

調査日	4月5日	4月10日	4月15日	4月20日	4月25日	
芽長 (cm)	本 年	1.28 ± 0.34	2.82 ± 0.61	4.56 ± 0.79	7.75 ± 1.05	10.56 ± 1.42
	前 年	2.25 ± 0.57	4.28 ± 0.95	7.63 ± 1.22	10.39 ± 1.57	13.59 ± 2.04
葉数 (枚)	本 年	0.45 ± 0.32	1.38 ± 0.45	2.41 ± 0.41	3.36 ± 0.39	4.35 ± 0.43
	前 年	1.04 ± 0.38	1.51 ± 0.38	2.51 ± 0.50	3.35 ± 0.40	4.40 ± 0.40

- 1) 茶業試験場内の作況調査園(定点調査園)において一番茶の萌芽を2019年3月28日に確認した。これは前年(3月30日)とくらべ2日早かった(表1)。
- 2) 1月から3月にかけての平均気温が平年(過去5カ年平均)よりも高く推移したため芽の動き出しは早かったものの、萌芽後は平年(過去5カ年平均)より低い気温が続いたことにより新芽の初期生育が前年よりも遅れた。最終的に、開葉は前年並みとなったが、芽長は前年よりも短かった(表2)。

## 2. 一番茶実収と収量構成要素

表3 摘採日(試験場内作況調査ほ場)

本 年	前 年
4月25日	4月26日

表4 一番茶実収(kg/10a)と収量構成要素

本 年		前 年	
収 量	指 数	収 量	指 数
576.8 ± 78.6	83	691.8 ± 26.8	100

注) 指数は前年を100とした値(以下同様)

【百芽重 (g)】

本 年		前 年	
重 量	指 数	重 量	指 数
81.8 ± 6.8	99	82.3 ± 5.1	100

【新芽数 (本/m<sup>2</sup>)】

本 年		前 年	
芽 数	指 数	芽 数	指 数
1228 ± 90	93	1316 ± 165	100

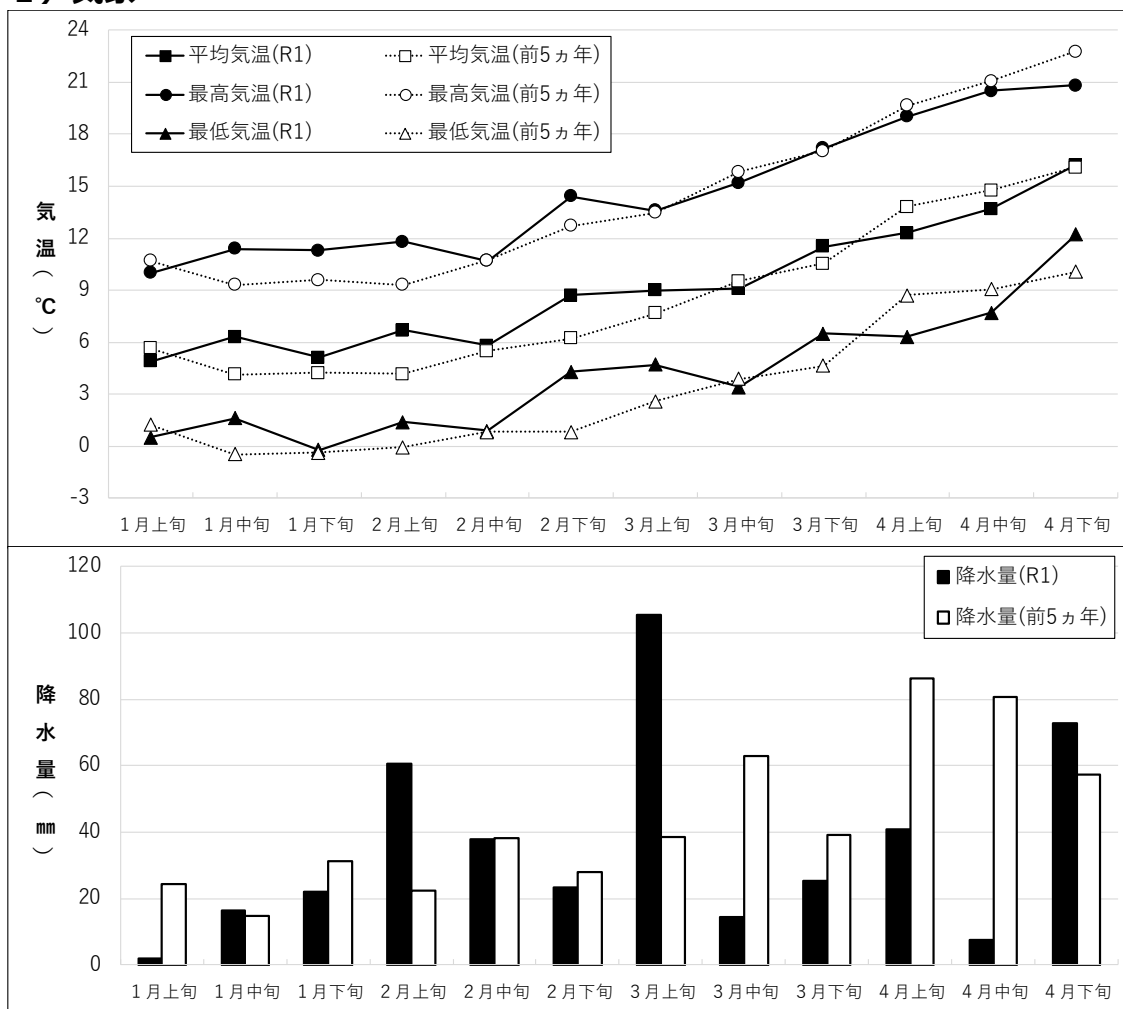
【出開き度 (%)】

本 年	前 年
32.6 ± 6.9	30.4 ± 6.6

- 1) 摘採日は、4月25日で前年(4月26日)より1日早かった。
- 2) 一番茶収量は、577kg/10aで、前年より約17%少なかった。
- 3) 百芽重は、前年比99%と前年並みであったが、新芽数は前年比93%と前年よりも少なく、収量が少なかった要因の一つと考えられた(表4)。

### 3. 気象および土壌の状況

#### 1) 気象



#### 2) 土壌

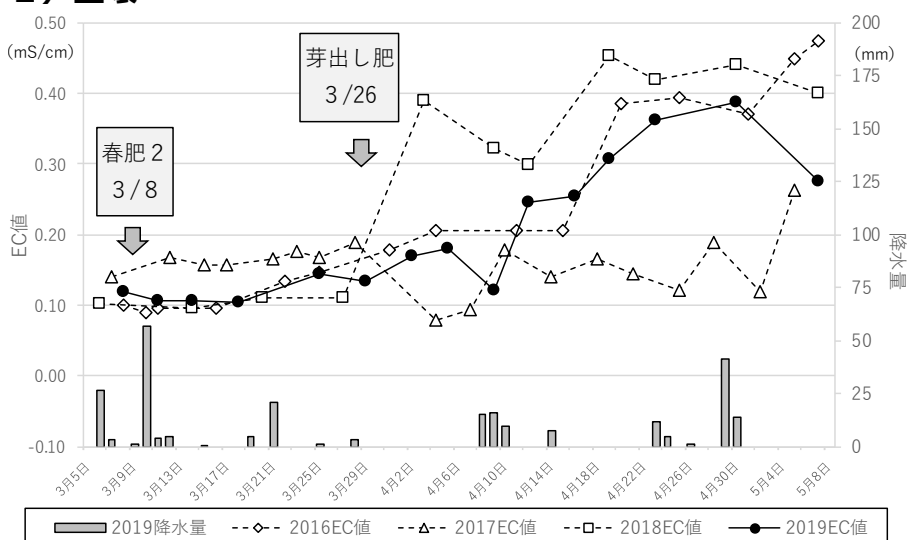


図3 試験場内作況調査園の土壌 EC 値と降水量の推移 (2016-2019 年)

## 4. 今後の栽培管理

### 1) 刈りならし作業

#### (1) 刈りならし時期

- ①一番茶摘採10～14日後を基本とする。
- ②一番茶の芽揃いが悪かった園（晩霜害を受けた茶園等）や早摘みした茶園では、遅れ芽の発生が著しいので、刈りならし時期をやや遅らせる（14～20日後）。
- ③2回刈りならしをする場合、2回目が遅すぎると二番茶芽を剪除し、生育のばらつきや減収の原因となるため、作業の遅れに注意する。

#### (2) 刈りならしの位置

- ①刈りならしの位置は、基本的には一番茶摘採後に立ち上がった葉や遅れ芽を除く程度で、一番茶を摘採した位置で刈りならすようにする。二番茶芽にはハサミをかけないように十分に注意する。

### 2) 中切り更新

- ①秋までの再生芽の生育期間を十分に確保するため、平坦部では8月5日、山間部では7月20日までに**再整枝できるよう**、1番茶摘採後から計画しておく（中切りから再整枝までの期間は70～75日が目安）。
- ②近年、夏季の高温・干ばつが頻発しているが、今後の気象予報を参考にしながら強度（深さ）を決定する。また、処理直後に頭上散水（0.5～2t/10a）を行うことで、新芽の再生が促進される。

### 3) 病害虫防除

- ①病害虫防除について、『平成31年度佐賀県施肥・病害虫防除・雑草防除のてびき』を参照してください。